

改訂2版

# 山羊放牧場の カヤネズミ

久住牧野の博物館編



©Ishiwaka

カヤネズミは、

イネ科草の葉を細く裂いて

丸い巣(球巣)を作り、

その中で子供を育てます。



川原のような  
オギやススキの草原に、  
球巣が多く  
見つかることから、  
高いイネ科草の  
生い茂る場所が、  
カヤネズミの生息に  
適していると  
考えられていました。



8年前、

山羊たちの放牧が

始まった頃の草地です。

春は、

ネズミムギに

覆われていましたので、

カヤネズミの巣作りには

好適に見えました。



でも、

6月からは

セイタカアワダチソウが

急に大きくなり、

中に入ると

周りが見えないほど

密生します。

こんな草の状態では、

カヤネズミが

生息しているとは

とても思えませんでした。



その後、一年中放牧で草を  
食べさせてきた結果、  
ネズミムギもセイタカアワ  
ダチソウも少なくなり、  
チガヤ、ネザサ、バヒアグラ  
スなどの多年生イネ科草が  
広がりました。



食べる頻度が下がった所は  
ススキ、チガヤ、ネザサが  
ムラになって生え、  
草の中層や上層に  
時々、  
球巣を見つけた  
ことができます。



食べ残された外来草のメリケンカルカヤやススキ、ネザサに  
球巣を作りました。

10月初旬





10月下旬



9月中旬

©Ishiwaka

山羊たちは、  
そこら中の草を  
遠慮無く踏みつけ、  
食いちぎっていきます。



前触れもなく

ガサガサと

草を押し分けて入ってきて

草原の住人達を驚かせます。



天気の良い日は

ごろごろ昼寝で、

草も

押しつぶされてしまいます。



冬も暖かい陽を浴びて  
のんびりと昼寝。  
枯れ残った草も  
押しつぶされてしまいます。



メヒシバやエノコログサなどの1年生のイネ科草も増えてきました。  
また、いつも食べられ踏まれる所には、

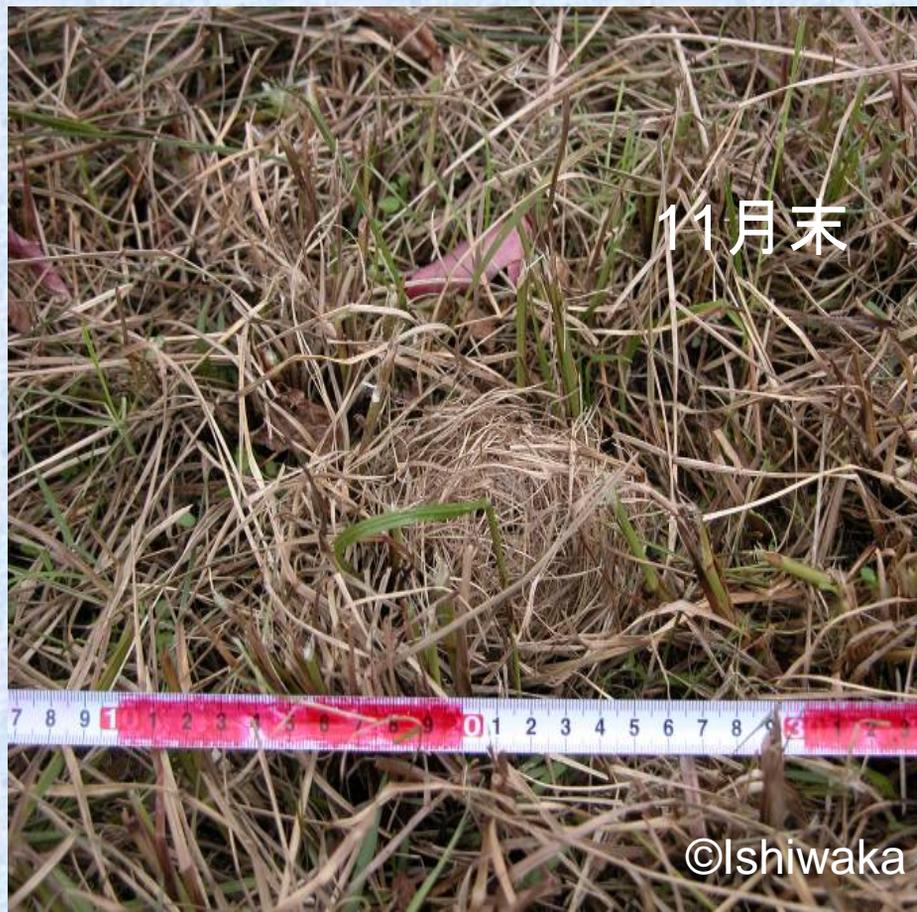
最近、外来種で山羊の毛に絡みつく種子を

たくさん着けるチカラシバが勢力を拡げてきました。



カヤネズミにとって  
放牧場は、  
生活や繁殖に  
適した場所ではないよう  
に思えます。

でも、今日は、  
チカラシバの株間に  
地表巣が  
見つかりました。



2012.07.04



©Ishiwaka



©Ishiwaka

山羊を他の牧区に移してから、8日おいて、この牧区に戻しました。  
前回食べられてから15 cmほど伸びたチカラシバにカヤネズミが巣を  
作っていました。

まだ葉だけしかないチカラシバの地面から15 cm位の位置です。

放牧地はカヤネズミにとって  
最高の餌場です。

カモジグサ、エノコログサ、

チカラシバ、ギンギシ、…。

大きめの種子を

たくさん着ける植物が

春から秋まで

次々と生長してきます。

バッタ、コオロギ、アブ、ハエ、

糞を処理する甲虫、…。

多くの昆虫の

幼虫・成虫が生きています。



繁殖用の球巣は、  
草地内の適当なイネ科草を  
探して作れるし、  
フカフカに積もった枯葉の下で  
子供を育てたり、  
冬を越すこともできます。

カヤネズミは、  
山羊たちが作ってくれた環境を  
巧みに利用して  
生きていますようです。

おわり



## 附記

放牧地をカヤネズミが営巣場所に選ぶのは理解できるのですが、食べられたり踏まれたりする危険は高く、やはりちょっと無謀です。電気牧柵で囲ってあげました。山羊は電線に触ると痛いと思っているので近づきません(実際は電気を流していませんが)。



初版	2012年1月7日
改訂版	2012年4月15日
改訂2版	2012年7月6日
編集	久住 牧野の博物館
編集責任者	石若礼子